

# 土人形の研究一歩前進

## 広幡 2千を超える実測調査の結果で

米沢市広幡コミュニティセンターでこのほど、地域固有の土人形「成島人形」と「下小菅人形」の保存活動の一環として、昨年から進められてきた実測調査の結果が報告され、2種を判別する指標などが初めて示された。

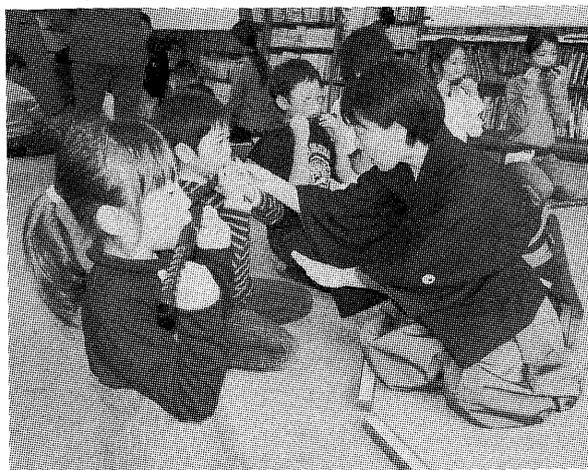


調査結果を披露する阿部さん＝広幡コミセン

保存活動は、地域の「宝」を後世に残していきたいと、広幡コミセンが中心となり平成26年3月にスタート。置賜民俗資料館Ⅱ六郷町西藤泉Ⅱ学芸員の阿部洋さんら協力のもと、2種のみを洗い出し資料にまとめるという構想だった。

阿部さんによると、成島人形は下塗りせず直接絵付けしている、底部の仕上げが粗いといった大胆な仕様が特徴。一方下小菅人形は、紫がかつた艶のある独特な黒い塗料が使われているほか、顔

幡地区に現存する土人形全ての実測調査に取り組んできた。9月末までに約9割にあたるという53軒分2166体が終了。およその判断基準が整い、広幡地区文化祭(10月24、30日)で阿部さんによる報告会が開かれ、結果が展示された。



八反田さん(右)に教わりながら笛に挑戦する児童たち

## お手柄親子に感謝状

### 米沢署 深夜に高齢者保護

認知症高齢者の発見・保護に貢献したとして、米沢署(伊藤哲署長)は4日、米沢市矢来二丁目の会社員徳重花菜さん(23)と、その母則子さん(53)親子に感謝状を贈呈した。

途中、自宅前に座り込む人影を発見。不審に思い則子さんとともに確認したところ、裸足で寒さに震える高齢女性(70歳代)だった。声を掛けたが話がかみ合わなかったため「認知症ではないか」と考え、警察に連絡。毛布を掛けたり靴を貸したりしながら警察官の到着を待ったという。

米沢署で行われた贈呈式では、伊藤署長が「放置されれば大変なことになっていたかもしれない。声を掛けて頂きありがとうございます」と謝辞を述べ、2人に感謝状を手渡した。

花菜さんは「見つけることができて良かったです。今後同様のことがあれば迷わず助けたらいい」と、則さんは「当然のことをしただけ」

高齡化社会を迎え決して他人ごとではなくお互い様だと思おう」と話していた。



伊藤署長から感謝状を受け取る花菜さん(左)

**御仏事・御祝事**  
**その他の 葬儀**  
 ご予約受け賜ります  
**まるたけ**  
 米沢市通町 電話 24-2100 定休日水曜日

また、調査したうち、約200体は置賜民俗資料館に寄贈されており、来年3月にはナセBAで展示を予定。その後は同資料館で保存していくという。

これまでも成島、下小菅人形の分類はできてきたといい、阿部さん

部分は繊細に描かれているのに対し、衣類などは相良人形に比べると雑に彩色されているという。

## 気分は能楽師 児童が体験

プロの能楽師が教える「能楽器体験教室」がこのほど、米沢市立三沢西部小学校(神保雅寿校長)で開かれ、全校児童28人が和の伝統文化に親しんだ。

中には、同じデザイン成島、下小菅、相良人形もあり、比較すると分かりやすいという。今後は名称や特徴、重量などを記載した資料を作成し、持ち主に贈るほか、広幡コミセンで管理していくという。

児童たちは4グループに分かれると、全ての楽器を順番に体験。このうち笛のコーナーでは、八反田智子さん(神奈川県)指導のもと、音を出す「稽古」をした。普段使ったりコーダーと違い、ただ吹くだけでは鳴らない横笛に「難しい」「音が出ない」と悪戦苦闘。八反田さんから「しっかり息を吸ってお腹から出すこと」とアドバインされ、何度もチャレンジしていた。徐々にこつを掴み、見事成功すると嬉しそうな表情を見せていた。